

A 朝の鳥と友の便り

練習の答えと根拠

問1 時を表す語

答え イ

解説 庭に出た時刻を示す。現代語の「努めて」と混同しない。

問2 変化を表す語

答え エ

解説 空が次第に明るくなる変化を表す。

問3 程度と評価

解答例 とても趣がある。

解説 「いと」が程度を強め、「をかし」が心ひかれるよさを表す。

別解・許容 「たいへん風情がある」「とてもすてきた」など。この場面で「とてもおかしい」は不可。

問4 対象を読む

解答例 鳥の声

解説 「その声」の「その」は直前の鳥を指す。

別解・許容 小さな鳥の鳴き声。空や庭だけを挙げた答えは不可。

A 朝の鳥と友の便り

練習の答えと根拠

問5 心情を表す語

答え ア

解説 手紙を読み、友と過ごした日々を思い出している。哀れな境遇だとは書かれていない。

問6 意味の根拠

答え とともに遊びし日々を思ひ出でて

解説 「あはれ」の意味は、懐かしい日々を思い出す場面から考える。

確認 本文と同じ表記で書く。

問7 現代語との違い

答え ウ

解説 同じ音の現代語へそのまま置き換えず、前後の内容で確かめる。

問8 場面に応じて説明

**解答例 ①では鳥の声に趣を感じ、②では友と遊んだ日々を思い出してしみじみと感じている。
(39字)**

解説 対象は鳥の声と友との思い出。どちらも心の動きだが、向けられる対象が違う。

別解・許容 同じ内容が伝わる表現を認める。

確認 鳥の声と趣、友との思い出としみじみした思いの両方を確認する。

B 大雨と久しぶりの友

練習の答えと根拠

問1 程度の強さ

答え イ

解説 橋も流れるほど、水量が大きく増している。

問2 よい場面での意味

答え ウ

解説 「いみじく」は喜びの程度を強めている。

問3 多義語の共通点

答え ア

解説 よいことにも悪いことにも使える。何の程度かは後に続く語で確かめる。

問4 現代語との違い

答え エ

解説 遠くまで訪ねてくる人は容易にはいない、という評価。感謝だけに置き換えない。

問5 時間の長さ

答え イ

解説 会わなかった期間の長さを示す。現代語の「年ごろ」とは異なる。

B 大雨と久しぶりの友

練習の答えと根拠

問6 動作主

解答例 あるじ

解説 「あるじ」が友を見て喜び、その後の言葉も発している。

別解・許容 「家の主人」も内容上は正しいが、本文の言葉の指定では「あるじ」。

問7 自分の言葉で訳す

解答例 このような遠い所まで訪ねてくる人は、めったにいない。(26字)

解説 「かく」「遠き所」「来る人」「ありがたし」をつなげる。

別解・許容 「こんな遠くまで来てくれる人は、珍しいものだ。」など。「めったにないほど貴重な人だ」なども可。感謝の気持ちを添えてもよい。字数の下限は設けない。必要な意味を保つ簡潔な訳も認める。

例：「こんな遠くまで来る人は珍しい。」

確認 このように遠い場所まで来ることと、めったにいないことを含める。

問8 意味の固定を避ける

解答例 ②では友に会えた喜びの大きさを表しており、悪いことだけを示す語ではないから。(38字)

解説 後続く「喜ぶ」がよい場面での用法を示す。

別解・許容 同じ内容が伝わる表現を認める。

確認 ②の喜びが強いことと、悪い内容に限らないことを示す。

C 夜の音と道の童

練習の答えと根拠

問1 多義語を文脈で選ぶ

答え ウ

解説 音がするのに人が見えないことを不思議に思っている。

問2 語義の根拠

解答例 戸の外で音がしたのに、人の姿が見えなかったから。（24字）

解説 音と目に見える状況の食い違いが根拠。

別解・許容 同じ内容が伝わる表現を認める。

確認 音がしたことと、人が見えないことの両方を含める。

問3 別の意味での用法

答え ア

解説 衣服の破れやつぎを示す後の説明から、粗末だと判断する。

問4 本文の根拠

答え 衣は破れ、つぎ多し

解説 破れとつぎの多さが、ここでの「あやしき」の意味を決める。

確認 本文と同じ表記で書く。

C 夜の音と道の童

練習の答えと根拠

問5 似た音の現代語との違い

答え エ

解説 粗末な衣を着た童への同情を表す。現代語の「いとしい」だけで判断しない。

問6 動作の意味

答え イ

解説 「寝床より起く」につながるので、眠りから覚める意味で読む。

問7 動作主

答え 旅人

解説 気持ちの持ち主を確かめる。童自身が自分を同情しているのではない。

問8 文脈による意味の分岐

解答例 ①では音がするのに人が見えないことを不思議に思い、②では破れてつぎの多い衣を粗末だとしている。（47字）

解説 ①は出来事への疑問、②は衣服の質や見た目への評価。

別解・許容 同じ内容が伝わる表現を認める。

確認 ①の出来事と不思議さ、②の衣と粗末さを区別する。

D 旅先の日

確認テスト 100点 採点基準付き

問1 時間と動作〔10点〕

答え ウ

解説 「つとめて」は早朝。「おどろく」はこの場面では目覚めること。

採点 正答で全点。

問2 変化を読む〔10点〕

答え ア

解説 花が次第に咲きそろう様子を表す。

採点 正答で全点。

問3 程度と評価の翻訳〔10点〕

解答例 とても趣がある。

解説 花の様子に強く心ひかれている。

別解・許容 「たいへん風情がある」「とてもすてきた」など。

採点 「とても」など程度の強さ5点。「趣がある／すてきた」など場面に合う評価5点。

問4 古語の意味〔10点〕

答え エ

解説 小さな犬を見てほほえむ場面なので、いとおしくかわいい意味。

採点 正答で全点。

D 旅先の日

確認テスト 100点 採点基準付き

問5 気持ちの持ち主〔10点〕

答え 旅人

解説 手紙を出し、父を思い出している旅人が主語。

採点 「旅人」で10点。

問6 心情の根拠〔15点〕

解答例 亡くなった父が書いた手紙を取り出し、父のことを思い出したから。（31字）

解説 手紙の書き手と、その書き手への思いが根拠。

別解・許容 「父の残した手紙から、もう会えない父をしみじみ思い起こしたから。」など。

採点 亡き父の手紙であること7点。父を思い出していること8点。字数外は合計から2点減点（0点未満にしない）。

問7 意味と根拠〔15点〕

解答例 里にはほかに一つもない石なので、めったにない珍しいものだという意味。（34字）

解説 「里には、ほかに一つもなし」が希少さを示す。

別解・許容 同じ内容が伝わる表現を認める。

採点 めったにない／珍しいという意味8点。里にほかに一つもない石という根拠7点。字数外は合計から2点減点（0点未満にしない）。

問8 二つの感じ方を比べる〔20点〕

解答例 ①では咲きそろふ庭の花に趣を感じ、③では手紙から亡き父を思い出してしみじみと感じている。（44字）

解説 対象を明らかにして、その場面に合う気持ちを書く。

別解・許容 同じ内容が伝わる表現を認める。

採点 庭の花5点。花に趣やよさを感じる5点。亡き父の手紙・思い出5点。しみじみした感慨5点。字数外は合計から2点減点（0点未満にしない）。